

学校と関係する健全母性育成事業の進め方

上谷 博宣*，伊川あけみ**，作宮 洋子***

要約：学校と関係する健全母性育成事業の重要性が増しているとの認識から、学校との関係の現状及び保健所担当者の意識等を調査してきた。その結果から、事業の重要性を確認し、実施上の問題点とその解決策を保健所担当者を交えて整理し「学校と関係する健全母性育成事業の進め方」としてまとめた。

1 目的及び方法

十代の人工妊娠中絶の増加、歪んだ性情報の氾濫による性への不安や悩みの増加等思春期における保健教育の意義は大きく、また高校進学率が高く殆どの若者が在学しているなど学校と関係する健全母性育成事業は、益々その重要性を増している。

我々は保健所の事業担当者と共に健全母性育成事業の現状、特に学校との関係や双方担当者の意識を調べてきた。

今年度は、学校側のニーズとして挙げられていた教育媒体の整備及び講師の派遣等についてより詳しく調査し、各保健所の事業担当者の会議を開催するなどして保健所の事業への取り組み方について検討した。

2 平成2年度の学校と保健所の関係に関する調査結果

(1) 健全母性育成事業は30回実施され、その内27回は学校を対象に実施された。

(%)

総 数	小学校	中学校	高 校
27 (100)	1 (3.7)	24 (88.9)	2 (7.4)

(2) 健全母性育成事業の学校側の実施時間は、保健・体育等の教育以外の時間に実施されていた。

(%)

総 数	保健・体育等の教育の時間	ホーム・ルーム学年集会生活指導等の時間	PTA、保護者会等の活動時間
27 (100)	4 (14.8)	11 (40.7)	12 (44.5)

(3) 健全母性育成事業の企画方法

ア 保健所内の当事業の企画会議は8保健所中6保健所が実施しており、その実施回数は、1回が1保健所、2回が2保健所、3回が3保健所であった。企画会議を実施しなかった2保健所は「未実施校を対象に事業を実施する」「管内の学校に実施希望を尋ねる」などと回答した。

* 石川県厚生部次長
** 石川県厚生部健康推進課長
*** 石川県厚生部健康推進課母子保健係長

イ 学校との打合せ会は全保健所が実施しており、1回が1保健所、2回が2保健所、3回が1保健所、5回が4保健所であり、出席者は学校の校長、教頭、養護教諭、学年主任、学校保健会の役員等であり、保健所は所長、保健普及課長、担当技師等であった。

打ち合わせ会の内容は、以下のとおりであった。

進行、実施方法	5回
対象者の決定	4回
学校での性教育の現状	3回
講師・講演内容	3回
アンケート内容の検討	3回
健全母性育成事業の目的説明	2回
事前・事後教育	2回
性教育の意義	2回
学校育友会の共催に関して	1回

(4) 教育媒体等

ア 実際に事業に用いた教育媒体は、16mmフィルムで、「生命創造」「中学生の男女交際」「タマゴからヒトへ」「いつの日かあなたも」等であった。

イ 保健所と学校が現在持っている媒体及び今後備えたい媒体は以下のとおりであった。

	現在所有している媒体	今後備えたい媒体
保健所	ビデオ、スライド、模型等	ビデオ、16mmフィルム、スライド、模型等
学校	ビデオ、スライド、模型等	ビデオ、模型等、16mmフィルム、スライド

ウ 学校が保健所に設置、紹介等を希望する媒体としては、ビデオが最も多く医学的な内容のものを希望している。

(5) 学校が保健所に希望するテーマ及び講師

ア 希望する講演テーマの主なものを挙げると、思春期の心と体、男女交際の在り方、男女の性差、月経指導、性に関する病気、生命の誕生、性に関する身体の悩み、男女の自立等であった。

イ 希望する講師の職種と保健所への期待については以下のとおりであった。

(%)

総数*	医 師			保健婦	その他
	産婦人科	精神科	公衆衛生		
36 (100)	21 (58.3)	7 (19.4)	2 (5.6)	2 (5.6)	4 (11.0)

総数*	派遣	情報提供	幹 旋	他
44 (100)	20 (45.5)	17 (38.6)	5 (11.4)	2 4.5

(*回答のあったもの)

(6) 個別相談の状況

ア 個別相談は45件あり、内容は、月経に関するもの22件(48.9%)、男女交際に関するもの11件(24.4%)、第二次性徴に関するもの9件(20.0%)、妊娠不安、友人関係、登校拒否、不定愁訴、拒食症などに関するものが各々1件(2.2)であった。

イ 相談は養護教諭が最も多く受けていた。

(%)

相談件数	養護教諭	学級担任	保健主任	学校医	その他
45 (100)	41 (91.1)	7 (15.6)	- (-)	- (-)	2 (4.4)

ウ ケースの指導に際して相談を受けた者が他者と指導方法に関して協議した場合は、45件中17件(37.8%)、しなかった場合は28件(62.2%)であった。

また、協議した場合の相手は以下のとおりであった。(%)

相談 件数	医師 *	学級 担任	養護 教諭	他の 教師	親
17 (100)	8 (47.1)	6 (35.3)	6 (35.3)	4 (23.5)	2 (11.8)

*医師は産婦人科4件、小児科2件、精神科1件、保健所医師1件

エ 保健所の対応への期待は27校中「あり」と答えたものが3校(11.1%)、「なし」と答えたものが24校(88.9%)であった。

「あり」と答えたものの内容は、性の悩み
の相談室の設置、親が家庭で行う性教育につ
いての指導、性教育の充実が各々1件であっ
た。

3 保健所事業担当者会議の検討結果

上記の状況を踏まえ、担当者会議で確認され
た事柄は以下のとおりである。

(1) 事業企画について

事業を企画する際に保健所が学校と連携し
て行う事業の展開方針を必ずしも持っていな
かった。

少なくとも保健所は、

- 各種相談事例を整理・分析し、同じよ
うな思春期の性の悩みを持つ可能性の
ある生徒に必要な指導を行う。

- 学校で当事業を実施する中で地域の
問題点を把握する

- 問題解決が困難な事例への指導体制
づくりを行う

などの明確な方針を持って事業に臨むべきで
である。

(2) 連携について

学校での当事業の実施時間は、保健・体育
等の教育以外の時間が多い。保健所として
は、今後、学校、親の会、PTA等も含め
地域との接点を深めつつ生徒の指導の充実を
図るといった視点を持ち、相互に生徒の健康
に関する情報を交換し合い連携を強化するこ
とが必要である。

(3) 教育媒体について

教育媒体についての調査では、既に備えて
いるもの、備えたいものに学校間で差があ
る。今後は、学校と保健所が協力して既に備
えてある媒体のリスト等の情報を整理・提供
できるような体制を作ることが必要である。

(4) 講師の派遣等について

講師の派遣等に関しては、講師に関する情
報を収集・整理し提供できるような体制を作
ることが必要である。

(5) 個別相談について

個別相談はプライバシーの保護を念頭に
おいた上で、学校医と関係を保ち適切な指導
体制を地域の医師会と協議して作りあげて
いくことが必要である。

(6) 今後の方向について

以上、保健所としてなすべき事柄と方法のいくつかを明らかにできた。これをもとに、健全な母性の育成はもとより、特にエイズ等性行為感染症の防止や望まない妊娠をさけるなど、次世代をになう若者の健康を保持・増進させるために、今後より一層健全母性育成事業を発展させる必要があると考える。

事業を実施する上においては、基本的なことであり十分なものとは言いがたいが、現状の中から導き出された検討結果を「学校と連係する健全母性育成事業の進め方」としてまとめた。

4 「学校と連係する健全母性育成事業の進め方」

(1) 保健所内でまず行うこと

イ ニーズの把握

思春期電話相談、母子保健データ、母子保健事業、児童相談所・医師会の情報、学校保健教育の内容等から思春期の性の悩み、未成年者の妊娠中絶等の性行動、母親の育児不安、学校の性教育等関連情報を収集分析し、ニーズを把握し、事業の展開を予測する。

ロ 事業実施方針の決定

所長を含む幹部職員が、当事業の所内における優先順位、地域保健活動との連係・発展への方針、対象校選定の方針（小中高校別の指導テーマ、モデル校方式、管内巡

回方式等）等事業実施方針を検討し、決定する。

(2) 学校担当者との打合せ

保健所・学校の事業担当者間で性教育ニーズの情報を交換、共有し、事業原案（教育テーマ、講師、教育媒体、PTAの参加、個別相談への対応と連係、指導形式等）を企画する。

校長、校医、保健所長、PTA会長、学年主任等関係者で事業原案を決定する。

(3) 関係機関との連絡調整

教育委員会、医師会、市町村、児童相談所等関係者に事業原案を連絡し、協議、調整して事業案を決定する。

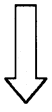
(4) 事業の評価

事業の結果を速やかに生徒、教師、PTA別に理解度や感想等を調査で把握し、テーマ、指導形式等事前予測との異同を分析・記録し、考え得る改善策を打ち出す。

個別相談の変化（件数、内容）、関連する母子保健指標の変化と対比分析・評価する。

(5) 事業結果の報告等

事業のねらいと関連づけて結果をまとめ、関係者に報告する。報告に関する感想・助言を事業の改善発展に活用する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:学校と関係する健全母性育成事業の重要性が増しているとの認識から、学校との関係の現状及び保健所担当者の意識等を調査してきた。その結果から、事業の重要性を確認し、実施上の問題点とその解決策を保健所担当者を交えて整理し「学校と関係する健全母性育成事業の進め方」としてまとめた。